

小豆のマイコセントロスポーラ斑点病（新称）

平成 30 年 7 月、十勝地方の複数のほ場において、小豆の葉に褐色に縁取られた淡褐色不整形の病斑が多数認められた。病斑上には倒棍棒状で先端糸を有する特徴的な形態の分生子を形成した。分離菌を小豆に接種したところ、原病徴が再現され、接種菌が再分離された。分離菌は V8 培地上で、倒棍棒状で先端糸を有する分生子および黒色亜球形で複数個連鎖する厚壁胞子を形成し、これらの形態的特徴は *Mycocentrospora acerina* (R. Hartig) Deighton と一致した。分離菌の rDNA-ITS 領域の塩基配列は *M. acerina* と 99-100% 一致し、rDNA-ITS 領域および TEF-1 α の塩基配列を用いた系統解析から、既知の *M. acerina* と同一のクレードを形成した。以上のことから、病原菌を *M. acerina* と同定し、病名をマイコセントロスポーラ斑点病（英名：Mycocentrospora leaf spot）とした。病原菌は多犯性であり、本道ではにんじんの黒色根腐病の病原菌として知られている。小豆分離菌は人工接種によりにんじんの他、ささげ、大豆、菜豆、ばれいしょ、てんさい、だいこん、はくさい、およびキャベツに病原性を示した。

（北大院農、十勝農試）



小豆のマイコセントロスポーラ斑点病（十勝農試 東岱 原図）